

氏名	上 杉 忠 久
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 4006 号
学位授与の日付	平成17年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Circulating white blood cell count correlates with left ventricular indices independently of the extent of risk area for myocardial infarction after successful reperfusion (再疎通療法成功後の急性心筋梗塞において、循環白血球数は、梗塞のリスク領域とは独立して、左心室指数と相関する)
論文審査委員	教授 大江 透 教授 佐野 俊二 助教授 上岡 博

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

急性心筋梗塞における病理学的過程では、虚血性心筋壊死は、多核白血球浸潤・サイトカイン生成などの特徴的な急性炎症および修復過程の引き金になる。閉塞した冠動脈に急激に再灌流を行なうと、炎症過程が加速し、心筋に損傷が生じ、これを再灌流障害という。この再灌流障害の原因となる多くの要素のなかでも、好中球は大きな影響力を持っている。また急性心筋梗塞の重要な予後因子に左心室駆出率（LVEF）や左心室の容量が指摘されている。これらの証拠に基づき、同じリスク領域をもつ心筋梗塞で再灌流療法に成功した患者において、循環白血球および好中球数は、梗塞後の左心室の駆出率・容量と関連性を持つと仮定し検証した。その結果、入院時の白血球数および好中球数、ならびに最大白血球数が左室駆出率（LVEF）とは逆相関を示し、左室収縮末期容量指数（LVESVI）とは相関することが明らかとなった。また入院時の白血球数および好中球数も左室拡張末期容量指数（LVEDVI）と相関した。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、急性心筋梗塞後の白血球（好中球）増加と再灌流障害による左室機能低下との関連性を検討したものであるが、従来十分確立されていなかった再灌流障害における白血球の役割に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。